

[添付資料]

1. ヒアリング調査 個表 (企業 14 社、地場産等 4 機関、教育機関 1 機関)
2. アンケート調査 (企業 1,236 社、地場産等 204 機関、教育機関等 150 機関)
 - (1) 調査票
 - 企業 対象
 - 地場産センター・公設試験場・リソースセンター 対象
 - 教育機関・美術館・博物館 対象
 - (2) アンケート集計表
 - 企業 編 (アンケート)
 - 地場産センター・公設試験場・リソースセンター 編 (アンケート)
 - 教育機関・美術館・博物館 編 (アンケート)

1. ヒアリング調査 個表

デジタルアーカイブ、デジタル情報活用に関するヒアリング

熊沢商事株式会社

所在地	910-0023 福井市順化 1-9-7
連絡先	電話 0776-23-1872 / FAX0776-27-0343
面談者	取締役社長 熊澤喜八郎 合織第三部部長 片矢直樹
日時	2008年9月1日 13時～14時30分
場所	熊沢商事株式会社

1. ビジネス概況

- ・ 東京は営業、大阪は貿易、福井は開発と生産
- ・ 売上の70%は国内、30%は輸出。国内売上は24億。内合織が20億、呉服関係が4億。輸出先は韓国、台湾、中国。
- ・ 縦糸トリアセテート(三菱レーヨンの織物に特化。トリアセテートを使っているのは、熊澤商事と広燃の二社のみ。輸出についても、欧米は広燃、韓国、台湾、中国は熊澤商事と棲み分けている。その意味では、オンリーワン企業。
- ・ 基本的に白生地(生機とプリント下)の商売。一部、黒地はリスクしている。
- ・ かつては、トリアセテートというだけで売れたが、最近はトリアセテートそのもの知らない人が増えており、顧客年齢層が上がっている。

2. 現状のシステム

- ・ 社内の業務については、経理システム、営業管理システムがあり、それぞれが独立している。
- ・ 自社のホームページを持っており、現在扱っている商品の品番、品名、規格、混率等は公開している。一部、二次製品サンプルのあるものは、それも公開している。しかし、実際にはほとんど活用されていない。
- ・ 白生地中心なので、画像は必要ない。スペックが分かれば商売はできる。
- ・ 最近は、電話やFAXでの受発注や連絡より、メール活用が増えている。その意味では、システム導入のハードルは下がっている。

3. システム活用の可能性

- ・ システムの今後の課題は、開発部門で過去の試作品等のデータベース化を考えている。例えば、過去に綿/トリアセテートでどんな商品を作っていたかが分かると、開発に役立つ。また、二軒の100%協力工場とは情報共有を進めたい。
- ・ 営業の数字はシステムで把握できるが、外部の顧客との連携はシステム化できていない。顧客との連携にシステム活用の可能性あり。

ケイター株式会社

所在地	911-8510 勝山市昭和町 1-10-18
連絡先	電話 0779-88-1151 / FAX0779-87-0180
面談者	代表取締役社長 荒井由泰
日時	2008年9月1日 15時～17時
場所	東レ株式会社北陸支店

1. ビジネス概況

- ・ ほとんどが賃加工ビジネス。過去に製品ビジネスにも挑戦したが成功しなかった。
- ・ 特殊ユニフォームの一部は自販もしている。
- ・ 撥水性を持つ高密度ポリエステル織物「ヌレンザ」という傘地がテレビ等で紹介され人気を集めている。それは染色(小松精錬)して販売している。
- ・ 他社との差別化のためには、前工程と後工程が重要。前工程では糸作り(仮撚、撚糸)の設備を有している。後工程では、染色工場との連携が重要になる。レギュラーの糸使いだけなら、必ず中国生産に切り換えられる。
- ・ 毎月 80～100 点の試織を行っている。試織は 50～100m。中量産は 5～20 反。量産品は 100 反以上。
- ・ 東レクラスターにも所属しており、中国では東レと共同の展示会にも参加。商売が決まれば、東レインターナショナルか東レ系の商社を通じて販売。
- ・ 基本的には東レとの取り組みの中で機屋としては安定したビジネスを行っている。

2. 現状のシステム

- ・ FA では北陸でもトップクラス。最初に織機一台毎にパソコンをつなげ管理を行い、工場内を搬送ロボットが反物を運んでいる。
- ・ 設計書等は電子化し、東レとはシステム連携を行っている。
- ・ アーカイブとしては、ハンガーサンプルが並ぶギャラリーがあり、全て DB 化している。スポーツアパレル等には柄や組織を見せて決まることもある。このシステムを使い、アパレルのデザイナーが担当者にイメージを伝えると、ハンガーを取り出してくることができる。
- ・ 画像では風合いが伝わらないので、風合いを数値で表すことや動画を使うことも考えている。
- ・ 在庫管理では無線タグも使用している。子会社にケイター情報システムがあり、他社のシステム業務の仕事も受託している。
- ・ 社内のシステム構築は、ほぼ完成している。

3. システム活用の可能性

- ・ 残されているのは、外部との連携システム。
- ・ 現在の業態では完璧なシステムを構築しており、今後の課題はシステムを活用した新業態開発だろう。

丸井織物株式会社

所在地	929-1801 石川県鹿島郡中能登町久乃木井部 15
連絡先	電話 0767-76-1337 / FAX0767-76-0304
面談者	代表取締役社長 宮本 徹
	常務取締役営業開発部門長 古澤久良
	商品開発室室長 石沢弘一
日時	2008年9月2日 10時～12時
場所	丸井織物株式会社テキスタイルギャラリー

1. ビジネス概況

- ・ 7割は賃加工ビジネス。残りは生機販売。見本反は自社で加工している。
- ・ スポーツアパレル素材に特化しており、業績は好調。
- ・ 現在、裏地、タフタはゼロ。高付加価値の商品に特化している。
- ・ 中国南通市に工場進出しており、既に黒字化している。
- ・ 北陸最大のテキスタイルギャラリーを整備し、35000点のサンプルを展示している。サンプルは全てデジタルアーカイブとしても管理している。検索して、ハンガーサンプルを取り出すことが可能。スポーツアパレルのデザイナー等が来社する機会も増えている。

2. 現状のシステム

- ・ 社内の FA、企画開発、営業管理等のシステム化と連携はほぼ完成している。システム課は3名。システムは、社内で仕様を検討し、具体的なプログラム等は外注。

3. システム活用の可能性

- ・ 現在のデジタルアーカイブは社内で完結したシステムであり、外部との連携は今後の課題。
- ・ 白生地のままではテキスタイルを自販することは困難。まず、色をつけることが課題だが、在庫リスクを持つビジネスは資金的に難しい。
- ・ インターネット連携のシステムを活用して、デザイナーとの連携はできないだろうか。現在のアパレルは製品サンプルを見せなければ生地を決めることができない。残布を縫製工場で作ってもらったものを社員が着ていると、デザイナー等に目を付けられることもある。
- ・ デジタルアーカイブをビジネスに使うのならば、テキスタイルの画像よりも、色や二次製品の画像が説得力を持つ。その意味で、デザイナーとの連携が必要になる。
- ・ 海外市場開拓でも、その国の言語のWEBにデジタルアーカイブが掲載されれば、効果が上がるだろう。

繊維リソースいしかわ

所在地	920-8203 石川県金沢市鞍月 2-20
連絡先	電話 076-268-8115 / FAX076-268-8455
面談者	参事 下倉正光
日時	2008年9月2日 14時～16時
場所	繊維リソースいしかわ

1. 活動概況

- ・ 北陸三県の合織産地を統括する部署として機能している。
- ・ 現在、北陸産地では、非衣料の分野に力を入れており、自動車業界等の異業種との共同開発、共同研究が増えている。また、産学連携の動きも進めている。
- ・ リソースセンターを設立してから18年目。当初、アーカイブ収集は、テキスタイルメーカーの要請だった。当時のビジネスでは、ヨーロッパのサンプルを再現して商品化することも多かったのである。そこで、予算を決めて毎年ヨーロッパからサンプルを購入し、デジタル化して公開していたが、利用者が少なかったため、現在、サンプルの購入はしていない。
- ・ 現在ではサンプルを再現するビジネスは姿を消し、いかに新しいものを創り出すかが問われるようになってきている。また、再現するのであれば、どんな高精細な画像よりも、実物のサンプルの方が参考になるため、現在はアーカイブのデジタル化は行わず、展示会等に出品されたサンプルを収集している。
- ・ 現在のオールドコレクションは県の資産であり、それをリソースセンターが管理を委託されている。オールドコレクションをテキスタイルメーカーが活用するチャンスはほとんどない。顧客であるアパレルのデザイナーに紹介する程度であり、今後はアパレルデザイナー等に活用してもらおう方が良いかもしれない。
- ・ 現在の資料にも価値はあると思うが、それを活用するには、必要なコンテンツをコーディネートする人材が必要。現状では、そういう専門的な人材はいない。

2. 現状のシステム

- ・ オールドコレクションは、ブックの形態であり、分解することはできない。各ページの写真を取り、それで検索できるようにしている。まず、写真で検索し、必要があれば、実物資料を見せるようにしている。原則的にセンターに来所してくれれば、希望に応じて閲覧を許可している。
- ・ 現物サンプルは、展示会の度に補充している。現物サンプルは保管しているだけで、特に検索用のデータベース等は作っていない。

3. システム活用の可能性

- ・ システム連携により、市場のニーズを吸い上げ、産地企業に伝える。あるいは、産地企業が開発した商品を市場にプレゼンすることができれば、利用価値がある。
- ・ その場合でも、両者をつなぐコーディネーター的な人材は不可欠である。

第一織物株式会社

所在地	910-0345 福井県坂井市丸岡町四郎丸 4-100
連絡先	電話 0776-67-4370 / FAX0776-67-4341
面談者	代表取締役社長 吉岡隆治
日時	2008年9月3日9時30分～11時
場所	第一織物株式会社

1. ビジネス概況

- ・ 最初は資材からスタート。15年前は5億の賃機だった。3年前に10億、前期は20億の売上を達成した。その内、自販が16億。3年間で売上は倍増。今年の7月決算でも売上は昨年対比で30%アップ。
- ・ 最終目標は40億。年間500万mで単価800円、自販100%になると40億になる。しかし、今年はリーマンショックがあったので、引き締めが掛かっている。これまで通り

の成長は難しいが赤字になることはないだろう。

- ・ 輸出 8 割、メンズの比率が 7 割。社長自身が世界中に直接営業をかけ、現在の地位を築いた。中国に対しても、メーター10 ドルクラスの生地を 5000 反輸出している。
- ・ 自立事業は 2 年間取り組んだ。最初の一年は、ポリエステル高密度ストレッチのウインドブルーフを開発。パタゴニアに販売することを目指し、成功した。第二回では、DNA(第一織物ナイロンアドバンス)というナイロン織物を開発した。
- ・ 今後の業績は中国市場次第だろう。中国のアパレルトップとは人脈を構築している。
- ・ 海外で得た実績を元に日本市場にも再度拡販していく。そのために、原宿ショールームを中心に、現物比率を増やしていく。営業はレップ制度を活用していく。また、将来的には産地コーナーを作り、他社の素材も紹介していく予定。
- ・ 世界市場にはまだまだ開拓の余地はあり、それらは大阪営業所を中心に商社やコンバーターの力を活用していく。商社、コンバーターを外すという動きもあるが、自社ブランドが確立していれば問題はない。東京は利益、大阪は量を狙う。

2. 現状のシステム

- ・ 社内システムは完成している。
- ・ 情報システムよりビジネスモデルのシステムを重視している。
- ・ 今後、福井本社のショールームも充実させていく。

3. システム活用の可能性

- ・ 原宿オフィス中心に、レップを使って現物販売を目指すので、レップ管理システム、顧客との連携システム、WEB 活用のプレゼンテーションシステムの活用が考えられる。
- ・ また、大阪営業所は輸出中心なので、英語、韓国語、中国語の WEB を構築し、ダイレクトなコミュニケーション窓口を整備することも有効だろう。

株式会社カ・インパナ

所在地	929-0124 石川県能美市浜町又 168-8
連絡先	電話 0761-55-5030 / FAX0761-55-5280
面談者	取締役企画開発部長 宮元むつ子
日時	2008 年 9 月 3 日 13 時 30 分 ~ 16 時
場所	株式会社カ・インパナ

1. ビジネス概況

- ・ 株式会社カ・インパナは、小松精錬株式会社の子会社で水着、ユニフォームの製品ビジネス及び製品染めの委託加工ビジネスを行っている。
- ・ 長期的な戦略として、利益率の低い賃加工の染色業だけでなく、利益率の高い製品販売ビジネスへを目指している。
- ・ かつては小松精錬製品部があり、国内に縫製工場も持っていたが、海外生産の商品との競合のため、整理された。
- ・ 製品ビジネスには、大量生産を基本とする実用的な商品と、付加価値の高い商品に二分される。カ・インパナでは、その両者を扱っているために運営が難しい。
- ・ 製品染ビジネスは、多くの可能性を持っているが、染色染を前提にした商品企画、デザイン、パターン制作が必要になる。それらの機能を社内に持つにはコストが掛かりすぎるといった問題がある。製法の特許を有していても、自社主体のビジネスができない点でジレンマを感じている。

2. 現状のシステム

- ・ 小松精練の加工管理システムは充実しており、通常の基幹業務システムや営業管理システムも稼働している。
- ・ 問題は、情報システムではなく、ビジネスモデルのシステムであり、サプライチェーンのシステムである。すなわち、社内システムではなく、外部との連携システムである。連携システムがあれば、新業態開発も可能になり、新業態開発には連携システムが必要になる。反対に、既存のビジネスモデルだけならば、新システムは必要ないだろう。

3. システム活用の可能性

- ・ カ・インパナの製品染事業については、アパレル企業、デザイナー、縫製工場等との連携性を保ち、製品サンプルを提案するシステムが重要になる。デザイナーと縫製工場がチームを組み、カ・インパナが加工し、アパレル企業にプレゼンするという流れである。ビジネスが成立した際の利益配分等のルールをシステムに組み込むことができれば、新しいサプライチェーンが構築できるだろう。
- ・ 小松精練の子会社で、テキスタイル直販を行っている会社もあり、ここではアパレル企業等の顧客との連携が求められている。
- ・ 小松精練本体では、合繊クラスター等のテキスタイルメーカーとの連携による売上在庫管理システムやWEBプレゼンテーションのシステムが有効と考えられる。
- ・ 捺染事業では、テキスタイルデザイナーとの連携によるサンプル提案システムの可能性が高い。
- ・ 染色加工場は、テキスタイル製品の最終加工拠点であると同時にテキスタイル製品の物流拠点である。そのため早くからシステム整備が進んでいる。しかし、それらのシステムは基本的に社内システム及び一部の取引先との連携に限定されていた。今後、新業態や新規事業を目指すのであれば、外部との連携システム活用が必要とされるはずである。

株式会社ソー

所在地	491-0903 愛知県一宮市籠屋 5-1-1
連絡先	電話 0586-45-8392 / FAX0586-46-6240
面談者	常務取締役一宮事業部長・営業管理部長 遠藤美喜雄 テキスタイル事業部長・開発部長 上田康彦
日時	2008年11月4日 13時～14時
場所	株式会社ソー本社

1. ビジネス概況

- ・ 年商 80 億円。染色委託加工が 90%以上。
- ・ 昨年からテキスタイル事業部をスタートし、機屋に自社企画の生機を発注し、自社で色付けをしてアパレルに販売している。現在はテキスタイル事業部の売上は 2～3000 万円だが、1～2 億円にはしたいと考えている。
- ・ 染色委託加工は 90%以上が尾州。現在、毛 100%は 5～6 億円しかない。毛中心の複合織物が主体。
- ・

2. 現状のシステム

- ・ オリジナルの基幹業務システムを構築している。
- ・ システム部に 2 名のスタッフがいる。
- ・ 委託加工ビジネスでは、システム化が進んでいる。時間の短縮とペーパーレス化を目指

- している。
- ・ 委託加工の工程管理は有料サービスとしてインターネットを通じてメーカーに開示している。初期導入費用 3 万円、月 2 千円の使用料。有料にして利益を上げることが狙いではなく、あくまで互いの効率化のために普及させたい。全てのメーカーが入ってくれば無料でもいい。
 - ・ アパレルと連携して、IC タグ活用も進めている。アパレルのワールドとは定期的な打ち合わせを行っている。
 - ・ オンワード樫山の一部とは、ソトーの試験データを認めている。
 - ・ 染色加工、起毛加工の工程管理情報をアパレルに出すことは問題ない。
3. システム活用の可能性
- ・ アパレルからメーカーに入るオーダー情報が、同時に染色加工場にも来ると良い。基本的に試験染めをした染色加工場で加工するので問題はない。これについてはシステム的には可能だが、機屋と整理加工場の取り組みの問題がある。
 - ・ テキスタイル事業部のビジネスは、まだシステム化が進んでいないので、今後はこの部分のデジタル化を推進したいという希望を持っている。
 - ・ 系染め～機屋～染色加工の工程管理等の連携性があるとビジネスが効率的になり、新しいビジネスモデルが構築される可能性がある。

艶金興業株式会社

所在地	494-0007 愛知県一宮市小信中島字南九反 11 - 1
連絡先	電話 0586-62-5211 / FAX 0586-62-3272
面談者	代表取締役社長 墨大輔
日時	2008 年 11 月 4 日 14 時 30 分～15 時 30 分
場所	艶金興業株式会社本社

1. ビジネス概況

- ・ 年商は 38 億円。90%が染色委託加工。
- ・ テキスタイル販売は 7 年前からスタートし、現在は年商 1 億円。もっと拡大したいのだが、在庫リスクの問題が大きい。テキスタイル販売製品は婦人服地。自社で企画して外注の機屋に生機を発注し、自社で染色加工し販売している。染色加工に特徴のある通常の機屋とは違うモノを目指している。ほとんどがアパレルと直接打ち合わせして開発している。
- ・ 公的検査機関の資格認定を受けており、染色データは自社で取得することが可能。
- ・ 染色加工では、在庫品を仕上げの再加工をすることで、新製品になる。環境問題の関心も高まっており、新たなビジネスとして考えたい。

2. 現状のシステム

- ・ 社内の基幹業務システムは自社オリジナル。システム部に担当者が 5 名。
- ・ メーカーには尾州ネットでデータを流している。尾州ネットは WEB ベースで運用されている。

3. システム活用の可能性

- ・ 現在のテキスタイル事業では自社企画の生機を仕入れているが、生機を在庫している外部の機屋と連携し、自社で染色し、自社サイトで販売できれば、新たなビジネスモデルとなる。

- ・ メイドインジャパン、メイドイン尾州であることをトレーサビリティさせたいという希望を持っており、サプライチェーンの合意が取れば、系統的に連携することは可能。
- ・ 日本だけでなく、中国アパレル企業への販売も計画しているが、中国と日本のコミュニケーション手段がない。そのため、中国語サイトによる中国アパレル企業向けの提案、及び展示会のフォローを行いたいという希望を持っている。

長大株式会社

所在地	491-8608 一宮市栄1丁目10番17号
連絡先	電話 0586-72-0181 / FAX 0586-72-0429
面談者	代表取締役社長 長尾大八郎
日時	2008年11月4日 16時～17時30分
場所	長大株式会社本社

1. ビジネス概況

- ・ 年商 36 億円。
- ・ その内、製品ビジネスが 5 割を超えている。製品ビジネスは 20 年前から開始し、現在は郊外型紳士服店にブラックフォーマルの製品を納めている。生地は日本製で縫製は、日本中国、ベトナム。
- ・ テキスタイルは、紳士服地はイージーオーダー向けとオンワード樫山、婦人服地はタキヒョー、瀧定等のコンバーター。
- ・ 創業当時は、オーダー用の生地販売だったので、短納期対応のために自社で糸染設備を持っている。現在、糸染の 6 割は外注、4 割は自社加工。現在も売上の 5%はオーダー用生地を扱っている。オーダー用生地は、須田町の羅紗屋さん経由で販売している。こちらは在庫を構え、台帳を作り、売り消しによる在庫管理を行っている。
- ・ ジョイント尾州展でミラノの展示会に出展している。ビジネスとしてはまだまだだが、その一環として、ネリーロディ社のトレンドディレクションを受けており、それは役に立っている。
- ・ 2008 年、初めてインターテキスタイル上海に出展した。
- ・ アパレル製品の小売価格の中で生地代が占める割合はわずかに 5%に過ぎない。機屋の立場から見ると、4～5 万円程度までのスーツの生地は酷いもの。
- ・ 昭和 27、8 年から 30 cmのハンガーサンプルが保存してあるが、管理に困っている。年に数回はお客さんが見に来るが、ほとんど活用されることはなくなっている。

2. 現状のシステム

- ・ 基本的にアナログの管理。コンピュータは経理作業のみ。糸染管理、織指図、整理加工書等はアナログ管理。

3. システム活用の可能性

- ・ ミラノウニカ等の展示会を見ると、ハンガーサンプルには全てバーコードで管理されており、同種のシステムを希望していた。ヨーロッパの雑貨展示会では、展示会後に出展商品をバイヤーだけに見せるホームページにアップすることが一般化しつつある。
- ・ それを踏まえれば、展示会出展と共に画像及び出展商品データをデータベース化し、ハンガーサンプルにバーコードをつけ、コードレスのバーコードリーダーを使って、スワッチ請求、着分発注、原反発注の受注管理を行う。展示会後にバイヤーだけがアクセスできるホームページを作成し、ホームページ上から追加情報を伝える。この

- ホームページを英語、中国語等で作成すれば、展示会フォローにも活用できる。
- デジタルアーカイブとして教育機関等に公開する許諾を得れば、最新の展示会出展素材情報を伝えることが可能になる。

いわなか株式会社

所在地	503-0234 岐阜県安八郡輪之内町里 100 番地
連絡先	電話 0584-68-1050 / FAX 0584-68-1080
面談者	生産部長兼工場長 岩田哲治
日時	2008 年 11 月 5 日 10 時 ~ 11 時 30 分
場所	いわなか株式会社本社

1. ビジネス概況

- 年商 34 億円。テキスタイル、ニットの企画製造販売。販売先は、婦人服地はコンパター向けが半分。ニット、メンズはアパレルに販売。小売店は丸井、良品計画に販売。
- 糸を仕入れて、織り、編み、染色整理して販売。織りも編みも設備を有していることが強みになっている。
- ニットは問屋との取り組みで、オリジナル原料の後染めリスクを始めたが評判はいい。
- 輸出は、1~1.5 億円。欧州中心に販売。一部、韓国。中国は実績なし。
- 2006 年より製品 O E M 開始。現在は年商 1 億。3~5 億が目標。今年から一部中国生産開始。素材は基本的に自社素材。アイテムはレディース及びメンズ(スーツは除く)。
- 3 シーズン前までのハンガーサンプルは常に事務所に展示。それより古いものは順次、倉庫に保管。保管場所が狭いので、古いものはスクラップにしている。
- ニットに関しては、5 年かけて過去の資料を全て整理した。
- 資料に関しては、保存はしているが、管理はしていない。
- 古い資料はほとんど見ない。年に 2~3 回、昔の資料を見ることもある。しかし、そのままのものは糸が作れないことが多い。似寄りのものはできる。
- どこかの紡績で、全スワッチをデジタル化したそうだが、活用できずに終わっただけ。

2. 現状のシステム

- 社内の業務は全てコンピュータ管理。経理、仕入れ、設計、出荷、在庫、糸管理、生機管理。「プロ 4」という独自のシステムを構築。今はエクセル連携が可能になり、使いやすくなった。コンピュータ室に 3 名。
- 一部の商社とはオンラインで請求書処理を行っている。
- 尾州ネットで整理加工場と連携。しかし、納期管理や出荷明細は fax で行っている。設計書は台帳管理。ハンガーサンプルとのリンクはない。
- 進行管理等は、コンピュータではなく、社内の掲示板に「見える化」している。

3. システム活用の可能性

- QR を行うなら、受注前に概略のスペース確保等の事前情報が必要だが、そのためのシステムが存在しない。そこで、重点的なアパレルとの間で、概略の生産計画を事前に互いに共有することで、クイックな生産体制が可能になる。
- 尾州メンズ共同組合では、タグに QR コードをつけて産地証明を行っているが、今後、最終製品までの情報をリンクし、トレーサビリティを可能にすることが求められるだろう。
- ミズホ興業は、3 社の機屋とのコラボ販売を行っている。いわなかでは、ブルミエールビジョンの自社ブースに他社 10 社の商品を展示し、いわなかが販売している。これら

の企業との連携をシステム化することに可能性がある。たとえば、展示会場での自社製品のレスポンスが分かれば、迅速な対応が可能になるだろう。また、展示会場からの問い合わせ等をシステム連携と同時に携帯にメールで飛ばすことも可能であり、海外での展示会での利便性が高まるだろう。

岐阜県毛織工業協同組合マテリアルセンター

所在地	501-6235 岐阜県羽島市竹鼻町蜂尻 448
連絡先	電話 058-391-8511 / FAX 058-391-8512
面談者	事務局長 山田幸士
日時	2008年11月5日 11時45分～12時30分
場所	岐阜兼毛織工業協同組合マテリアルセンター

1. 活動概況

- ・ 2008年オープン。財団法人岐阜県産業経済振興センター・デザインセンターのマテリアルランチとして位置づけられている。
- ・ 岐阜県の支援を受け、JC インデックス見本、JC トレンドコーナー展示素材、IWS 展、尾州コレクション等の素材、約7万点を収蔵。毎年3千点ずつ追加している。
- ・ JC 関連の素材は、一時期、神戸ファッション美術館に預けていたが、活用されないために事務局に返送されていた。そのため、本センターに委託することになった。
- ・ 通常の産地にあるようなその産地の資料だけでなく、日本全国のテキスタイル資料が一堂に集まっているため、資料的な価値は高い。
- ・ 産学連携や産地見学と合わせ、マテリアルセンターを活用した素材学習講座などを積極的に呼びかけている。

2. 現状のシステム

- ・ 現段階ではデジタル化は進めていない。あくまでリアルなアーカイブを整備している。

3. システム活用の可能性

- ・ このセンターにあるアーカイブこそ、教材としてデジタル化するにふさわしいコレクションである。実際にビジネスに使われた全国のテキスタイル関連企業の代表商品が網羅されており、アーカイブの価値は高い。

財団法人一宮地場産業ファッションデザインセンター

所在地	491-0931 愛知県一宮市大和町馬引字南正亀4 - 1
連絡先	電話 0586-46-1361 / FAX 0586-44-7455
面談者	事務局長 柴田正康
日時	2008年11月5日 13時30分～15時
場所	一宮 FDC 内

1. 活動概況

- ・ 一宮 FDC は創立 25 周年。20 年間は地元企業を公平に支援するという方針で運営。その頃に、ヨーロッパの資料を毎年 2000 点ずつ購入し、公開していた。そのうち、毎年 100 点をホームページで公開していたが、利用者は少なかった。

- ・ サイトを開いても本当に耳寄りな情報がなければ見に来ない。しかし、メンズの展示会では顧客が決まっているので、他の顧客には商品を見せないこともある。産地が持っている閉鎖的な体質を変えないと情報公開は難しい。
- ・ 最近の5年は、やる気のある企業のビジネス支援する方向に変わっている。「ジョイント尾州」という展示会では、FDCが東京、パリ、ミラノ、香港で展示会会場をセットし、ビジネスの場を提供している。同時に、ネリーロディの指導を受け、開発費も補助し、ヨーロッパの展示会に出展している。ミラノのトリビュート大学に素材を提供し、ファッションショーを開催するなどの活動も行っている。尾州のメーカー17社が参加。

2. 現状のシステム

- ・ 創設当初は、ヨーロッパのサンプルを参考に企画するというニーズが存在したが、最近ではニーズが変わっている。既存のサンプルよりも、最新のトレンド情報、テキスタイルの企画ディレクション情報の方が役に立っている。ネリーロディのファッショントレンドセミナーは人気が高い。

3. システム活用の可能性

- ・ 博物館的なデジタルアーカイブは整備したいと考えているようだ。
- ・ FDCが行う展示会の事前告知、展示サンプルの管理、展示会でのスワッチ請求や受注管理、展示会フォローへの活用が期待できる。

中外国島株式会社

所在地	491-0931 愛知県一宮市大和町馬引字焼野 48
連絡先	電話 0586-45-0183 / FAX 0586-46-3229
面談者	取締役 伊東核太郎
日時	2008年11月5日 15時30分～17時
場所	中外国島株式会社本社

1. ビジネス概況

- ・ 子会社を入れて年商50億円。テキスタイル販売では20億円。メンズが10億円、レディースが7億円、国際部が3億円。輸出の半分以上が欧州、3割がアメリカ、中国はほんのわずか。
- ・ 子会社の業務は以下の通り。中外国島直販株式会社では、生地切り売りというオーダー。株式会社ベルダムで婦人フォーマルウェアのアパレル事業。日本ゲルハルト株式会社では損害保険代理店業務。上海中外国島毛織有限公司は中国のテキスタイル生産工場。

2. 現状のシステム

- ・ 様々な業務を行っており、システム化には苦労している。
- ・ IBMのAS400で基幹業務システムを構築している。その他は、アクセス等で必要に応じたシステムを構築し、使用している。
- ・ システム室には二名いるが、一名はアパレル出身の未経験者。
- ・ パソコンのクライアントサーバーシステムに移行を考えているが、なかなか進まない状況。
- ・ 営業は、紳士6人、婦人5人。営業は進行のチェック、系管理、生機管理などに使っている。

3. システム活用の可能性

- ・ メイドイン尾州の取り組みをしており、トレーサビリティに興味を持っていた。テキスタイルメーカーが原料、撚糸、織布、染色加工等を入力し、アパレル企業が縫製工場等を入力し、最終製品につけられた QR コードを読み取ると携帯 WEB でその製品の詳細情報が閲覧することが可能になる。

財団法人桐生地域地場産業振興センター

所在地	376-0024 群馬県桐生市織姫町 2-5
連絡先	電話 0277-45-1011 / FAX 0277-46-1014
面談者	事務局長 生方修一
日時	2008 年 11 月 13 日 10 時 30 分 ~ 12 時
場所	桐生地域地場産業振興センター

1. 活動概況

- ・ 桐生テキスタイルプロモーションショー開催事業では、桐生織物協同組合の桐生展と年二回の産地展としてビジネスの場として定着している。
- ・ 桐生市産業活性化推進事業として、桐生市の中心商店街にインキュベーションオフィスを設置・整備し、起業家のサポートを行っている。
- ・ 人材育成事業として、各種セミナー(桐生繊維大学、品質管理研修、目標必達行動研修、テキスタイルトレンドセミナー等)を行っている。
- ・ 情報収集提供事業の一環として、世界の染織資料収蔵品を紹介する企画展を行っている。収蔵品は民族衣装が 2000 点、産地資料が 2~3000 点。かつては、独自サーバーを立ち上げ、インターネットで公開していたが、サーバーの老朽化に伴い、現在はスタンドアロンのパソコンの中にデータを保存し、希望する来館者には公開している。
- ・ 当時はデジタルカメラもなかったもので、ポジフィルムをスキャナーで読み込み、ソニーの協力の元、デジタル化した。インターネットで公開する際には、ソニー独自の形式のファイルを公開するためのコンバージョンソフトを地元のシステム企業に委託した。
- ・ 桐生テキスタイルプロモーションショーの資料は、新しいものはハンガーで保存するが、その後はスワッチにして保存している。

2. 現状のシステム

- ・ 現状はスタンドアロンパソコンにデータを保存している。いつでもインターネットで公開することは可能だが、現状ではその予定はない。
- ・ インターネットに画像を公開しても、あまり活用されない。

3. システム活用の可能性

- ・ 安価な費用でインターネット公開ができれば、アーカイブとして公開することは可能だろう。
- ・ また、展示会と連携し、バイヤーのみに出展商品をプレゼンテーションすることは有効と考えられる。

株式会社ミタショー

所在地	376-0011 群馬県桐生市相生町 1-273-3
連絡先	電話 0277-54-1731 / FAX 0277-54-1400
面談者	常務取締役 三田修武
日時	2008年11月13日 13時～14時
場所	株式会社ミタショー

1. ビジネス概況

- ・ バイオーダーの機屋。販売先は問屋が 70%、アパレルが 30%。アパレルは限定されたブランドのみを対象にオリジナル別注のみ。
- ・ 展示会にかける商品もそのまま受注することはほとんどない。展示会はあくまでスタートであり展示会に出展したサンプルを元にアパレルと話し合いながら、糸使い、柄表現を変えるなどして、オリジナルを作り上げる。
- ・ 同じアパレルの中でも、ブランドが異なると絶対に情報を漏らさない。他社よりも、同じ会社の中の方が厳しい。
- ・ JC に出ないのは、あまり多くの人に来て欲しくないから。特定のブランドやデザイナーとキャッチボールしながらモノ作りをするので、取引先の数も限定される。
- ・ 輸出は全体の 10～20%。中国はオリンピック前までは良かったが、オリンピック後は勢いがなくなった。欧州向けは、既存の商品でも選んでもらえる。日本は皆が同じトレンド商品を追いかけるが、欧州は自分が気に入れば過去のものでいい。

2. 現状のシステム

- ・ オリジナルのシステムを構築。品番を入力すると、設計、糸使い、糸量計算、単価、過去の履歴、加工指図書等が全て出てきて、仮想見積もりも可能。

3. システム活用の可能性

- ・ 海外の展示会では、キャッチボールができないので、こちらが提示した商品をそのまま販売することになる。したがって、システム化が容易であり、海外展のフォローに活用できるのなら有効。その際、海外のテキスタイル展示会で使用する商品説明の表現を辞書化すると使いやすい。日本語では風合いを表現する様々な言葉を使うので、返って英語表現の方が良いかもしれない。光沢、表面効果、重量感、適正アイテム等。

泉織物有限会社

所在地	376-0034 群馬県桐生市東 5-5-16
連絡先	電話 0277-45-2449 / FAX 0277-45-2450
面談者	代表取締役社長 泉太郎
日時	2008年11月13日 14時30分～16時
場所	泉織物有限会社

1. ビジネス概況

- ・ 元々は桐生お召しの着尺機屋。現在は、絞り染め中心。
- ・ 販売先は多様化している。元々は、桐生の買い継ぎ商を通して問屋、小売店というルートだった。現在は、それに加えて問屋に直接卸売する形態、直接、小売店に卸売する形態、直接消費者に販売する形態がある。

- ・ きもの分野では、中間流通が崩壊しつつある。家具は掛け売りなしで、メーカーと小売店が直接現金取引をしているが、きものもそうなるのではないか。技術を理解している中間流通の人が減ると、結果的に仕事が減る。
- ・ テレビで紹介されると、行政に問い合わせ訪ねてくる人がいる。
- ・ 現在、桐機(きりはた)というグループを5社(泉織物、高光織物、後藤、江雅織物、井清織物)で作り共同で販売会やイベントを行っている。

2. 現状のシステム

- ・ 全て昔ながらのやり方で仕事をしている。
- ・ メールは仕事では使っていない。
- ・ ホームページも持っていない。きもの業界では、ブローカーやいかがわしい人ほど立派なホームページを持っている。それと同じにはなりたくないが、そろそろホームページは必要と感じており、検討しているところ。

3. システム活用の可能性

- ・ デジタルアーカイブという意味では、きものを見たいという人は多い。きもの場合、全て商品で販売してしまうので、ほとんど資料が残らない。その意味で、きものデジタルアーカイブは意義がある。

佐啓産業株式会社

所在地	376-0052 群馬県桐生市天神町 2-9-7
連絡先	電話 0277-22-8811 / FAX 0277-22-8877
面談者	代表取締役社長 佐藤好雄
日時	2008年11月14日 10時～11時30分
場所	佐啓産業株式会社

1. ビジネス概況

- ・ 和装部門とテキスタイル部門。年商6億円。
- ・ 和装製品卸及び小売り。問屋70%、小売店20%、直販10%。
- ・ 和装は、元々、喪服用の黒い帯が中心。現在は黒帯が15%以下。七五三セットが30%～40%。その他は、卒業式の袴セット、成人式のきもの、成人式男性の羽織袴セット。
- ・ 和装用テキスタイルも行っている。しかし、うちが1000円だとすると、北陸は500円、韓国は200円ので出てくるので、競争が厳しい。
- ・ テキスタイルは、久我商事(加栄レース)経由で問屋に卸売。
- ・ 和装は、レンタル用途が増えている。スタジオアリス等の写真館が衣装を揃え、衣装代は無料、撮影代のみの営業を行い、人気を集めている。

2. 現状のシステム

- ・ システム化は早かった。20年前に基幹システムを構築。言語はコボル。富士通のマシン。
- ・ 現在は、社内LANが基幹業務系とパソコン系の二系統になっている。
- ・ 在庫管理もシステム化しようとしたが頓挫した。全社で2500アイテム、5000品番あり、管理ができなかった。
- ・ インターネット販売を行っている。自社サイトもあり、2008年8月から楽天にも出店した。しかし、卸売をしているので、メーカーの直販が最も高い価格設定になってしまう。
- ・ サイトデザインは外注。トップページで3～6万円。

3. システム活用の可能性

- ・ 現在、最も困っていることは、直接、小売店や消費者に商品をプレゼンテーションできないこと。問屋を通さなければ小売店に見てもらえない。商品を小売店にプレゼンテーションするシステムがあるといい。メーカー、問屋、小売店をシステム連携すれば、メーカーが画像やデータを入力し、問屋が価格を入力し、小売店に見てもらえることができる。小売店はそれを消費者に見せることも可能になるので、売上アップが期待できる。
- ・ 同時に、B2B のメールマーケティングを研究したいと考えている。B2C のメールマーケティングは普及しているが、B2B ではあまり活用されていない。

小林当織物株式会社

所在地	376-0035 群馬県桐生市仲町 1-4-29
連絡先	電話 0277-44-7135 / FAX 0277-44-7139
面談者	取締役営業部長 村岡謙一
日時	2008 年 11 月 14 日 13 時 ~ 15 時
場所	小林当織物株式会社

1. ビジネス概況

- ・ 婦人服地を中心にしたテキスタイル企画製造卸。問屋、商社向けが 95%。アパレルに直接販売しているのが 5%。
- ・ 輸出は全体の 10%。去年までは韓国輸出が好調だったが、為替の影響で減っている。現在は台湾、中国向け。
- ・ 営業は客先別に 6 人。常にミーティングを行い、情報を共有している。
- ・ 元、寮だった建物を改装して、テキスタイル資料館にしている。全部で 4~5 万点のコレクションがある。見学は受け入れている。
- ・ 種類別にラックが分けてあり、ハンガーにはそれぞれのラックのナンバーが書いてあり、指定のラックに戻すようにしている。
- ・ 品番がついているハンガーサンプルは指図書がある。
- ・ 来館者は年間 100 組程度。

2. 現状のシステム

- ・ 現状の工場管理等は基本的にアナログ。
- ・ パソコンは経理と伝票発行、送り状発行程度しか使っていない。
- ・ 糸台帳、企画台帳といった台帳で管理している。
- ・ システムではないが、最近問屋の担当者やアパレルの企画担当者と携帯(写メール)で仕事をすることが多い。柄確認などは、携帯の画像でも役に立つ。
- ・ 街頭の写真や雑誌の写真などを携帯のカメラで撮影して、企画打ち合わせ等に活用している。

3. システム活用の可能性

- ・ 営業はノートパソコンを持ち歩く習慣がないため、携帯が端末として利用できれば便利。携帯からの写メールを特定のアドレスに送信することで DB に取り込むことも可能である。また、在庫確認や価格確認も、特定のアドレスにメールすれば、必要なデータを自動的に返信することも可能である。こうした機能を活用した営業ツールは有効と考えられる。

文化学園ファッションリソースセンター・テキスタイル資料室

所在地	151-8521 東京都渋谷区代々木 3-22-1
連絡先	電話 00-3299-2187
面談者	文化学園ファッションリソースセンター長 間間正雄
日時	2008年12月5日 15時～16時
場所	文化学園ファッションリソースセンター・テキスタイル資料室

1. 活動概況

- 文化学園ファッションリソースセンターは、文化女子大学と文化服装学院の附属機関として1999年7月に開設された。約19000点の生地サンプルを系統的に整理・保管するテキスタイル資料室のほかに、パリコレクション等のファッションを中心とした映像資料を保有する映像資料室、長年にわたりファッション服飾関連実物資料を蓄積してきたコスチューム資料室で構成されている。
- 文化学園の教員や学生は自由に閲覧が可能だが、一般にも「文化学園ファッションリソースクラブ」という有料会員サービスを提供している。しかし、現在のところ、法人、個人共に数件が登録しているだけだが、今後の充実を目指している。
- 文化学園には服飾博物館もあり、50年以上経過し歴史的、文化的な価値を有すると判断されたものは、博物館に移管する。
- テキスタイル資料室は、学生の教育を目的としており、使える資料室を目指している。
- 約9500点のスイッチサンプルはスペックが揃っており、デジタル検索が可能で、連動した整理棚から検索したスイッチサンプルが抜き出せるようになっている。(病院のカルテ整理棚と同様の仕組み)名前だけしか分からず、実物を確認するための辞書的な使い方をされることが多い。
- 素材メーカー、産地企業等から提供されたハンガーサンプルは約9200点保管している。そのうち、三分の二はデジタル化が進んでいる。こちらのサンプルは、一定期間を経過し、重複が確認されると、カット可能サンプルとされ、学生が自由にカットし活用することができる。デザインコンテストの応募、企画マップの資料等で活用している。資料室の職員が学生に適切なアドバイスを行ったことで入賞者が増えているようで、学生の間では「リソースセンターの素材を添付すると入賞の確率が高くなる」という評価を得ているとのこと。
- オールドコレクションの売り込みも来るが、高額であるため、購入はしていない。オールドコレクションにデジタルアーカイブが添付されていれば、利用価値は高まると版番しているが、そのような事例はない。
- 現状、4人の常駐スタッフがあり、企画展の企画やアーカイブの運営管理を行っている。教育機関の附属施設だから可能なのであって、リソースセンターだけで自立した営業を行うのは困難である。

2. 現状のシステム

- 約9500点のスペックが完備されたスイッチサンプルはマックで検索が可能。現物スイッチを確認したければ、ボタンを押すと、整理棚からガチャンと該当スイッチの入ったパンチファイルが前に飛び出す仕組み。名前を検索して実物が見られることで、テキスタイルの辞書のように活用されている。
- ウィンドウズではなくマックなのは、当時、デザイン系では圧倒的にマックを使うことが多かったからであり、深い理由はない。
- 素材メーカー、産地企業等から提供されたハンガーサンプルは約9200点であり、3分の2がデジタル化されている。こちらは、検索というよりも、デザインコンテストに応募

する時の添付サンプル、企画マップの添付資料、作品政策のための企業問い合わせ等に活用している。最初は、カットさせず展示のみだが、一定期間が経過して、類似サンプルがあるものについてはカットを認めている。参考資料だけでなく使える教材として活用している。

- ・ 来年から文部科学省の支援を受け、WEB公開のための準備に入る予定。

3. システム活用の可能性

- ・ 現在は、あくまで現物の活用が中心であり、それを検索するためにデジタル化が行われている。
- ・ 教材という意味であれば、工場での生産現場の映像、テキスタイルデザイナーによる企画解説の映像等がデジタル資料に添付されていれば、活用の幅が広がる。
- ・ また、現在も生地と製品の関連を教えるために、生地サンプルにその素材を使用した製品写真が添えられているが、これらがデジタル化されれば、より活用の可能性は高まる。
- ・ また、学生の検索ランキング等が集計できれば、素材を提供したメーカーや産地企業にとっても有効だろう。

独立行政法人中小企業基盤整備機構 委託調査

テキスタイル資料の保存と活用 に関するアンケート調査票

経済産業省（繊維課）では、我が国繊維産業が近年おかれている悪環境を克服し、活力ある産業に回生するためには、魅力ある商品開発が必要であり、そのアイデアの源泉として重要、かつ国内に豊富に存在してはいるものの、手軽に参照することが困難な各種テキスタイル・サンプルについて、それを保有している機関との連携によりデジタル・アーカイブを形成し、インターネットを通してデザイナーや学生が手軽にアクセスできるようにすることを検討中です。

このアンケート調査は、上記検討のために必要な情報を得るため、（独）中小企業基盤整備機構（繊維産業支援室）が（株）東レ経営研究所に委託して実施するもので、調査票は繊維産地企業・アパレル企業・デザイナーズ企業等の代表者の方にお送りしています。

ご回答は、企画・開発現場のキーマンである企画責任者、チーフマーチャンダイザー、チーフデザイナーの方にお願ひ出来れば幸いです（ブランドを多数お持ちの企業におかれましては、基幹ブランドを担当されている方にご記入をお願いします）。

調査の結果は、並行して実施する他の調査の結果と合わせて分析し、活用されます。

ご回答内容は統計的に処理して利用させていただき、個人や個別企業の情報が外部に漏洩することはありません。何卒、我が国繊維産業の再活性化のため、ご協力をお願いします。

この用紙にご記入のうえ 11 月 28 日（金）までにご投函下さい。

株式会社 東レ経営研究所

〒279-8555 千葉県浦安市美浜 1-8-1

担当者：深津・足立

TEL：047-350-6226 FAX：047-350-6077

E-mail：Toshiki_Adachi@tbr.toray.co.jp

ご記入にあたって

1. ご回答は企画・開発現場のキーマンである企画責任者、チーフマーチャンダイザー、チーフデザイナーなどの方にお願ひできれば幸いです(ブランドを多数お持ちの企業におかれましては、基幹ブランドを担当されている方にご記入をお願いします)。
2. 回答し難い質問は空白で結構ですから、可能な限りご記入いただき、ご返送下さいますようお願い申し上げます。
3. 質問のほとんどは回答例から選んでいただくようになっています。
質問末尾の「1つに 印」「いくつでも 印」などの指示に従い、該当する回答例の番号を で囲ってください。
「その他」などの回答で「具体的に： 」とある場合は出来るだけ具体的な内容をご記入下さるようお願いいたします。
4. ご回答内容は統計的に処理した形で発表させていただきますので、個人情報や個別企業の情報が公開されることはありません。

テキスタイル資料の保存と活用

に関するアンケート調査票

質問1．貴社の概要について伺います。

1) 社名			
2) 住所	(〒 -)		
3) TEL		4) FAX	
5) ご回答者氏名		6) 役職	
7) 創業(設立)年	西暦_____年		
8) 業種 (主要なもの1つに印)	製造業	1. 織布業 2. ニット生地製造業 3. その他製造業(具体的に: _____)	
	加工業	4. 染色加工業 5. その他加工業(具体的に: _____)	
	卸売業	6. アパレル卸売業(製造卸、SPA含む) 7. 産元商社・買継商 8. 生地問屋 9. その他卸売業(具体的に: _____)	
	サービス業	10. デザイナーズオフィス 11. その他サービス業(具体的に: _____)	
9) 資本金	_____円	10) 従業員数	_____人

質問2 貴社におけるテキスタイル・サンプルの保有・管理状況について伺います。

質問2-1 貴社で生産あるいは仕入・販売された商品に用いられたテキスタイルや、企画の参考資料として集められたテキスタイル等のサンプルの保管状況について伺います。

1) サンプルの保存状況はどうですか(1つに印)	1. 基本的にはすべて保存している 2. 重要なものだけ保存している 3. 基本的に保存しない 4. その他(具体的に: _____)
2) 1)で1、2に印を付けた方に伺います。保存期間はどれくらいですか(1つに印)	1. 1年未満 2. 1~2年 3. 3~5年 4. 6~10年 5. 10年以上 6. 基本的に永久保存

3) 1) で1、2に 印を付けた方に伺います。現在の保存サンプル点数はどれくらいですか	約_____点
4) 1) で2に 印を付けた方に伺います。どのようなサンプルを重要と考えていますか(いくつでも 印)	1. 大量に生産あるいは取り扱ったもの 2. 将来の商品企画の参考になりそうなもの 3. 珍しいもの 4. その他(具体的に: _____)

質問2-2 質問2-1でテキスタイル・サンプルを保存していると答えられた方に、保存の形態について伺います。

1) サンプルの保存形態はどのようなですか(いくつでも 印)	1. 着分程度 2. ハンガー・サンプル 3. 台紙貼り付け 4. その他(具体的に: _____)
2) サンプルの整理方法はどのようなですか(1つに 印)	1. 年度別に区分して保管している 2. 素材別に区分して保管している 3. デザイン傾向別に区分して保管している 4. 得意先別に区分して保管している 5. その他の基準で区分して保管している (具体的に: _____) 6. 区分保管してはいない
3) サンプルに添付しているデータはどのようなものですか(いくつでも 印)	1. 品名 2. 品番 3. 規格(生地幅×生地長) 4. 目付・重量(g、匁、オンス等) 5. 組成繊維・混用率 6. 後加工内容(刺繍、捺染、透湿コーティング等) 7. 糸番手(デニール、毛番、綿番、デシテックス等) 8. 糸加工(撚糸等) 9. 織(編)組織 10. 織・糸密度(タテ・ヨコ)/編・ゲージ 11. 使用織(編)機(ジャガード、ドビー、レピア、エアージット等) 12. 染色加工内容 13. 生産時期・対応シーズン 14. 用途・アイテム 15. 価格 16. 二次製品サンプル 17. 素材メーカー名 18. 糸加工メーカー名 19. 製織・製編メーカー名 20. 染色加工メーカー名 21. 生地商社・問屋・コンバーター名 22. ユーザー(アパレル)名 23. その他(具体的に: _____)

4) サンプルの管理台帳(データベース)は作っていますか(1つに 印)	1. 部署毎に紙またはコンピューター上の台帳(データベース)に記録している 2. 全社統一して紙またはコンピューター上の台帳(データベース)に記録している 3. とくに台帳は作っていない 4. その他(具体的に:)
5) サンプルのデジタル写真化を進めていますか(1つに 印)	1. 基本的にすべてデジタル写真化して保存している 2. 一部をデジタル写真化して保存している 3. デジタル写真化はしていない
6) 5)で1、2に 印を付けた方に伺います。デジタル写真の整理はどのようにしていますか(1つに 印)	1. 全社的に検索可能なデータベース化して管理している 2. 部署ごとにデータベース化して管理している 3. 個人がそれぞれのやり方で管理している 4. 分からない

質問3 貴社におけるテキスタイル・サンプルの活用について伺います。

質問3-1 貴社における商品企画の状況について伺います。

1) 実質的な商品企画者は誰ですか(1つに 印)	1. 自社企画スタッフ 2. 社外企画スタッフ(デザインハウス等を含む) 3. 得意先企業 4. その他(具体的に:)
2) 商品企画に向けてテキスタイルを選定する上でのアイデアの主要な源泉は何ですか(3つまで 印)	1. 海外のテキスタイル見本市 2. 海外のモードやファッションのコレクション情報 3. 流行予測機関の予想情報 4. 海外ファッション関連新聞・雑誌情報 5. 国内ファッション関連新聞・雑誌情報 6. 小売店頭の流れ筋情報 7. 街頭観察情報 8. 美術館・博物館の繊維・ファッション関連展示 9. 過去の自社商品 10. 過去の他社商品 11. 仕入先の情報 12. 顧客の情報(流れ筋情報、ニーズ情報等) 13. 自社の創意工夫 14. 自社のシーズ 15. その他(具体的に:)
3) 企画に際してどのくらい過去の情報を参考にしますか	1. 参考にしない 2. 昨シーズンの情報 3. 1~3年間のトレンド変化 4. オールドコレクション 5. その他(具体的に:)

質問3-2 商品企画におけるテキスタイル・サンプルの重要性などについて伺います。

1) 貴社の商品企画におけるアイデアの源泉として、テキスタイル・サンプルはどの程度の重要性を持っていますか(1つに 印)	1. 大きな重要性を持っている 2. 多少の重要性を持っている 3. あまり重要性はない
2) テキスタイル・サンプルには伝統的なものと新規なものがありますが、どちらがより商品企画に役立つとお考えですか(1つに 印)	1. 伝統的なサンプル(オールドコレクション)の方が役に立つ 2. 新規なサンプル(ニューコレクション)の方が役に立つ 3. どちらも同じ程度に役に立つ
3) テキスタイル・サンプルを商品企画のアイデア源として利用する場合、テキスタイルのどの面を重視しますか(いくつでも 印)	1. 素材(綿、毛、合繊など) 2. 色 3. 柄(織組織、プリント柄、先染め柄など) 4. 風合い 5. 糸加工(強撚など) 6. 仕上げ加工(減量加工、塩縮加工など) 7. 用途情報(婦人ワンピース用など) 8. テキスタイル生産者情報(機業場名、染色加工場名など) 9. その他 (具体的に:)

質問3-3 テキスタイル・サンプルの現物を見る場合とデジタル写真化されたものを見る場合とは、利用目的によって得失があると考えられます。貴社の評価をお示し下さい。項目ごとに、最も向いていると思う形態に 印を付けてください。

	A. 着分サンプル ^{注1}	B. パタンシートやスワッチ ^{注2}	C. デジタル資料 ^{注3}
1) 基礎的なアイデアを得るためにテキスタイルを幅広く探索したいとき			
2) 用途・シーズンなどを決めて適切なテキスタイルを探索したいとき			
3) 素材・厚み・表面感などを決めて適切なテキスタイルを探索したいとき			
4) 特殊素材・特殊加工などのサンプルを探索したいとき			
5) 色を探索したいとき			
6) 柄(プリント、織り柄など)を探索したいとき			
7) 風合いを探索したいとき			

注1、2：社内や取引先、博物館などの資料が中心になると思われます。

注3：デジタル資料とは、テキスタイルを高精度なデジタルカメラで撮影してコンピュータ・システム内に格納し、検索によってパソコン画面で写真として見られるものを指します。検索方法にはさまざまなものがあり得ます。また、テキスタイルに付帯する各種情報も見ることができます。

質問3-4 テキスタイル資料に付属する情報について伺います。

<p>1) あればよいと考える 付属情報（いくつでも 印）</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 収蔵機関名 2. 品名 3. 品番 4. 規格（生地幅×生地長） 5. 目付・重量（g、匁、オンス等） 6. 組成繊維・混用率 7. 後加工内容（刺繍、捺染、透湿防水コーティング等） 8. 糸番手（デシックス、デニール、毛番、綿番等） 9. 糸加工（撚糸）内容 10. 織（編）組織 11. 織（編）密度 12. 使用織（編）機（ジャガード、ドビー、レピア、エアージット等） 13. 染色加工内容 14. 生産時期・対応シーズン 15. 用途・アイテム 16. 価格 17. 二次製品サンプル画像 18. 素材メーカー名 19. 糸加工メーカー名 20. 製織・製編メーカー名 21. 染色加工メーカー名 22. 生地商社・問屋・コンバーター名 23. ユーザー（アパレル）名 24. 色彩再現情報（標準色見本との対比など） 25. 風合いなど感性的な情報 26. 当該テキスタイルで狙った流行情報 27. その他（具体的に：)
---------------------------------------	--

質問4 現在経済産業省（繊維課）では、商品開発アイデアの源泉として重要、かつ国内に豊富に存在してはいるものの、手軽に参照することが困難な各種テキスタイル・サンプルについて、それを保有している機関との連携によりデジタル・アーカイブを形成し、インターネットを通してデザイナーや学生が手軽にアクセスできるようにすることを検討中です。こうしたテキスタイルのデジタル・アーカイブについて伺います。

<p>1) デジタルアーカイブ の利用価値について（1つに 印）</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに利用価値があると思う 2. まあ利用価値があると思う 3. どちらとも言えない 4. あまり利用価値はないと思う 5. まったく利用価値はないと思う 6. 分からない
--	--

<p>2) 収納するサンプルはどのようなものか望ましいと考えますか(いくつでも印)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的な素材、色、柄、織組織のサンプル 2. 各織編物産地の代表的なサンプル 3. 特殊な織編組織や、特殊な加工のもの 4. 過去に流行したサンプル(20~30年前、 50年程前、 100年以上前) 5. 最近のモード的サンプル(1シーズン前、 3年程度前、 10年程前) 6. その他(具体的に:)
<p>3) デジタルアーカイブには、付随情報としてしてどのようなものがあるかよいとお考えですか(いくつでも 印)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 収蔵機関名 2. 品名 3. 品番 4. 規格(生地幅×生地長) 5. 目付・重量 (g、匁、オンス等) 6. 組成繊維・混用率 7. 後加工内容(刺繍、捺染、透湿防水コーティング等) 8. 糸番手(デシックス、デニール、毛番、綿番等) 9. 糸加工(撚糸)内容 10. 織(編)組織 11. 織(編)密度 12. 使用織(編)機(ジャガード、ドビー、レピア、エアージット等) 13. 染色加工内容 14. 生産時期・対応シーズン 15. 用途・アイテム 16. 価格 17. 二次製品サンプル画像 18. 素材メーカー名 19. 糸加工メーカー名 20. 製織・製編メーカー名 21. 染色加工メーカー名 22. 生地商社・問屋・コンバーター名 23. ユーザー(アパレル)名 24. 色彩再現情報(標準色見本との対比など) 25. 風合いなど感性的な情報 26. 当該テキスタイルで狙った流行情報 27. その他(具体的に:)
<p>4) デジタルアーカイブは、単に検索するだけでなく、提供側が積極的に情報を提供することによって利用価値が一層高まると考えられます。どのような情報提供が望ましいとお考えですか(いくつでも 印)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. テキスタイルの基礎知識(テキスタイルの基礎知識をデジタルサンプルを提示しながら解説) 2. ファッション予測情報(色、デザイン等の流行予測をデジタルサンプルと関連づけて提供) 3. 小売店頭流行情報(小売店頭における流行情報をデジタルサンプルと関連づけて解説) 4. 街頭流行情報(ファッションナブルな町の街頭における流行情報をデジタルサンプルと関連づけて解説) 5. その他(具体的に:)

<p>5) デジタルアーカイブから目的とするサンプルを検索する場合、貴方ならどのような検索方法がよいですか(いくつかでも 印)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自由なキーワードで検索する 2. 素材、用途、年代等々の検索項目を特定したキーワード検索する 3. フレーズや自然文から連想される語を利用して検索する 4. アーカイブが準備した分類をたどりながら検索する 5. アーカイブ管理者にメールし、相談に乗って貰う 6. その他(具体的に:)
<p>6) デジタル・アーカイブの中のサンプルを商品企画に利用する場合、そのサンプルの仕入先などと連絡できる方がよいと考えますか(1つに 印)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. メールでスイッチが貰えるとよい(無償で) 2. メールで着分が入手できると良い(有償で) 3. 現物サンプルは貰えなくても、取扱業者が判明すると良い 4. そのようなサービスは不要である
<p>7) テキスタイルのデジタルアーカイブを会員制で運営するとしたら、貴社は加入される可能性がありますか(1つに 印)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ぜひ加入したい 2. 内容によっては加入したい 3. どちらとも言えない 4. 加入する可能性は小さい 5. 加入しない 6. 分からない
<p>8) テキスタイル以外に、伝統的なコスチュームの写真、最新流行ファッションの街頭写真、ファッションショーの写真等々の映像もデジタルアーカイブ化の可能性がありますか、そういうものへの希望はありますか(いくつかでも 印)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 欧米の伝統的なコスチュームのデジタル資料を希望する 2. 伝統的なバッグや靴、その他のアクセサリーのデジタル資料を希望する 3. 最新の街頭における流行情報を希望する 4. 最新の小売店頭における売れ筋情報を希望する 5. 国内および欧米のファッションショー情報を希望する 6. その他(具体的に:)

質問5 貴機関のご存じの範囲で、ある程度まとまったテキスタイルの収集を持っている企業または個人はおられますか。また、その企業または個人が公共機関等に対し、収集物を無償提供あるいは有償売却されたい意向をお聞きになったことはありませんか。

とくに、廃業された企業・個人が保有しておられた収集の行方について関心があります。

これは、情報としてお聞きするもので、回答者には何らの責任も発生するものではありません。

< 情報 1 >

1) 企業名			
2) 個人名			
2) 住所		電話	
3) 現状	1. 現在経営中 2. 倒産・廃業		
4) 収集の主な内容・特色とおよその点数	内容・特色： (およその点数：_____点くらい)		
5) 手放す意志の有無	1. ありそう 2. なさそう 3. 分からない		

< 情報 2 >

1) 企業名			
2) 個人名			
2) 住所		電話	
3) 現状	1. 現在経営中 2. 倒産・廃業		
4) 収集の主な内容・特色とおよその点数	内容・特色： (およその点数：_____点くらい)		
5) 手放す意志の有無	1. ありそう 2. なさそう 3. 分からない		

質問6 テキスタイル資料のさらなる活用のための方策等について、お考えがありましたらお示し下さい。

ご協力有り難うございました。

同封の封筒に入れ、11月28日(金)までにご投函下さい。

独立行政法人中小企業基盤整備機構 委託事業

テキスタイル資料の保存と活用 に関するアンケート調査票

経済産業省（繊維課）では、我が国繊維産業が近年おかれている悪環境を克服し、活力ある産業に回生するためには、魅力ある商品開発が必要であり、そのアイデアの源泉として重要、かつ国内に豊富に存在してはいるものの、手軽に参照することが困難な各種テキスタイル・サンプルについて、それを保有している機関との連携によりデジタル・アーカイブを形成し、インターネットを通してデザイナーや学生が手軽にアクセスできるようにすることを検討中です。

このアンケート調査は、上記検討のために必要な情報を得るため、（独）中小企業基盤整備機構（繊維産業支援室）が（株）東レ経営研究所に委託して実施するもので、調査票は公設試、地場産センター、繊維リソースセンター、産地組合等の代表者の方にお送りしています。

調査の結果は、並行して実施する他の調査の結果と合わせて分析し、活用されます。

ご回答内容は統計的に処理して利用させていただき、個人や個別機関の情報が外部に漏洩することはありません。何卒、我が国繊維産業の再活性化のため、ご協力をお願いします。

この用紙にご記入のうえ、11月28日（金）までにご投函下さい。

株式会社 東レ経営研究所

〒279-8555 千葉県浦安市美浜 1-8-1

担当者：深津・足立

TEL：047-350-6226 FAX：047-350-6077

E-mail：Toshiki_Adachi@Toray.tbr.co.jp

ご記入にあたって

1. 回答し難い質問は空白で結構ですから、可能な限りご記入いただき、ご返送下さいますようお願い申し上げます。
2. 質問のほとんどは回答例から選んでいただくようになっています。
質問末尾の「1つに 印」「いくつでも 印」などの指示に従い、該当する回答例の番号を で囲ってください。
「その他」などの回答で「具体的に： 」とある場合は出来るだけ具体的な内容をご記入下さるようお願いいたします。
パーセントを記入いただく質問は、10%単位で結構ですのでご記入をお願いします。
3. 文字でご記入いただく質問には、出来るだけ箇条書きで簡潔にご回答下さい。
4. ご回答内容は統計的に処理した形で発表させていただきますので、個別の回答が公開されることはありません。

テキスタイル資料の保存と活用

に関するアンケート調査票

質問1 貴機関の概要とご回答者について伺います。各欄にご記入ください。

1) 機関名			
2) 住所	(〒 -)		
3) TEL		4) FAX	
5) ご回答者 氏名		6) 役職	

質問2 貴機関におけるテキスタイル資料の収蔵状況についてお伺いします。

1) テキスタイル資料	1. 収蔵している(約_____点) 2. 収蔵していない
-------------	----------------------------------

質問3 質問2で「収蔵している」とお答えの方にお伺いします。

1) テキスタイル資料収蔵の主な目的(いくつでも印)	1. 試作品の保管 2. 産地の代表的製品の収集 3. 産地企業への企画参考資料の提供(国産) 4. 産地企業への企画参考資料の提供(外国産) 5. その他(具体的に: _____)
2) テキスタイル資料の収蔵形態(いくつでも印)	1. 反物 2. 着分 3. ハンガーサンプル 4. 台紙貼り付け 5. スワッチ 6. デジタル写真 7. その他(具体的に: _____)
3) 収蔵テキスタイル資料の年間利用者数	約_____名
4) 利用者の内訳(延べ利用回数を10%単位で記入)	1. 学生・生徒 _____% 2. 周辺住民 _____% 3. 観光客・旅行者 _____% 4. 繊維・ファッション関係者 _____% 5. その他 _____% (合計100%)
5) テキスタイル資料展示室の有無(どちらかに印、1の場合は面積記入)	1. あり(約_____平方米) 2. なし

6) テキスタイル資料収蔵の基本方針（収蔵の目的、範囲、収蔵決定方法、その他、基本方針としておられることを箇条書き）	
7) 収蔵テキスタイル資料の特色（箇条書き）	
8) 収蔵テキスタイル資料の入手先（10%単位で記入）	1. 自機関 _____ % 2. 産地企業 _____ % 3. 産地外のテキスタイル・アパレル企業 _____ % 4. その他 _____ % （具体的に： _____) （合計100%）
9) 収蔵テキスタイル資料の入手方法（10%単位で記入）	1. 寄贈 _____ % 2. 相対交渉で購入 _____ % 3. オークションで購入 _____ % 4. その他 _____ % （具体的に： _____) （合計100%）
10) 収蔵テキスタイル資料の増減傾向（1つだけ印）	1. 毎年相当増加している 2. 毎年若干増加している 3. ほとんど変わらない 4. 破損・滅失等で減少している
11) 収蔵テキスタイル資料の記録項目（いくつでも印）差し支えなければ記録票のサンプルを同封してお送り下さい。	1. 収蔵番号 2. 品名 3. 素材名 4. 糸番手等 5. 織編組織名 6. 染色加工の明細 7. 生産時期 8. 生産者名 9. 生産地 10. 用途 11. 入手経路 12. その他（具体的に： _____)
12) 記録形態（1つに 印）	1. 台帳 2. カード 3. コンピュータ内の一覧表的台帳 4. コンピュータ内の各種検索が可能なデータベース 5. その他（具体的に： _____)

13) テキスタイル資料利用者の検索方法(いくつでも 印)	1. 係員に質問 2. カードを閲覧 3. コンピュータ端末で検索 4. その他(具体的に: _____) 5. 検索サービスはない
14) 収蔵テキスタイル資料をデータベース化しておられる場合の、データベースソフト	1. 汎用DBソフト(名称: _____) 2. 特注DBソフト(およその開発費用: _____千円)
15) データベース化しておられる場合の検索可能項目(いくつでも 印)	1. 収蔵番号 2. 品名 3. 素材名 4. 糸番手等 5. 織編組織名 6. 染色加工の明細 7. 生産時期 8. 生産者名 9. 生産地 10. 用途 11. 入手経路 12. その他(具体的に: _____).

質問4 貴機関の現在のテキスタイル資料の収集・展示関連費用および資金源についてお伺いします。

1) 今年度の年間費用予算	_____千円
2) 費用予算内訳	1. 人件費 _____% 2. 収蔵品新規買付費 _____% 3. 収蔵品維持費 _____% 4. 展示関連費 _____% 5. その他 _____% (具体的に: _____) (合計100%)
3) 資金源	1. 組合費等自主財源 _____% 2. 国・自治体等 _____% 3. 寄付等 _____% 4. 会費等 _____% 5. 借入金 _____% 6. その他 _____% (具体的に: _____) (合計100%)

質問5 貴機関のテキスタイル資料の貸出や分譲についてお伺いします。

1) 貸出について (1つに 印)	1. 他の美術館などの企画展などへの貸し出すことがある 2. 研究者等の要請に応じて貸し出すことがある 3. 貸出は原則的に行わない
2) 分譲について (1つに 印)	1. 意義ある要請に対しては分譲することがある 2. 分譲は原則的に行わない

質問6 貴機関が収蔵しておられるテキスタイル資料のデジタル画像情報化について伺います。

1) テキスタイル資料のデジタル画像化にはどのような意義があるとお考えですか(いくつでも 印)	1. テキスタイル資料の長期保存の一助となる 2. 多様な検索方法と組み合わせることにより的確・迅速な情報入手が可能になる 3. インターネットと組み合わせることにより各地の機関に分散している情報を集中的に検索できる 4. その他(具体的に:)
2) デジタル画像化の取り組み状況(1つに 印)	1. 既に全部をデジタル情報化している 2. 既に一部(約 %)をデジタル化している 3. 実施すべく現在取り組み中である 4. 現在実施していないが、実施に向けての具体的な計画がある 5. 現在実施していないが、将来実施したいと考えている 6. 現在実施しておらず、実施の計画もない
3) デジタル画像はインターネット等で公開すべきだとお考えですか(1つに 印)	1. すべて公開すべきである 2. 主要なもの、価値がある物に限って公開すればよい 3. 公開する必要はない
4) 2)で1、2に 印を付けた方に伺います。デジタル画像はインターネット上に公開していますか(1つに 印)	1. すべて公開している 2. 一部を公開している 3. 公開していないが、公開に向けて準備中である 4. 公開しておらず、現時点では公開の予定はない
5) デジタル化を推進する上での困難点があれば上げて下さい(いくつでも 印)	1. 費用がかさむ 2. 要員がない 3. デジタル化・データベース化の技術がない 4. サンプルに関する情報が不足(スペック情報など) 5. 努力に見合う活用が期待できない 6. その他(具体的に:)

質問7 貴機関が収蔵しておられるテキスタイル資料の活用拡大について伺います。

<p>1) 貴機関が収蔵しておられるテキスタイル資料のデジタルアーカイブ化について伺います(1つに印)</p>	<p>1. 自己費用で推進中(または推進を計画中)である 2. 補助金などの施策があれば推進したい 3. どちらともいえない 4. あまり推進したくない 5. 推進する予定はない</p>
<p>2) テキスタイル・デジタルアーカイブ中核機関が形成された場合、貴機関ではここと連携してデジタルアーカイブを公開する意向はありますか(1つに印)</p>	<p>1. ぜひ公開したい 2. 実現のための補助金などの施策があれば公開したい 3. どちらともいえない 4. あまり公開したくない 5. 公開する予定はない</p>
<p>3) 貴機関のテキスタイル資料が実践的な商品企画・設計に活用されるためには、どのような努力・工夫が必要と考えますか(主なもの3つに印)</p>	<p>1. 繊維・ファッション業界やファッション情報に精通したキュレーターの育成 2. 検索方法の改善・工夫(クリエイションに直結する感性検索や連想検索などの開発) 3. 収蔵品の拡充(海外を含む他機関との連携も視野に入れて) 4. デジタル化とインターネットの活用によりクリエイションの現場などで簡便に検索・閲覧できること 5. 会員制などによる貸出サービスの実施 6. その他(具体的に:)</p>

質問8 貴機関のご存じの範囲で、ある程度まとまったテキスタイルの収集を持っている企業または個人はおられますか。また、その企業または個人が公共機関等に対し、収集物を無償提供あるいは有償売却されたい意向をお聞きになったことはありませんか。

とくに、廃業された企業・個人が保有しておられた収集の行方について関心があります。これは、情報としてお聞きするもので、回答者には何らの責任も発生するものではありません。

< 情報 1 >

1) 企業名			
2) 個人名			
2) 住所		電話	
3) 現状	1. 現在経営中 2. 倒産・廃業		
4) 収集の主な内容・特色とおよその点数	(およその点数: _____点くらい)		
5) 手放す意志の有無	1. ありそう 2. なさそう 3. 分からない		

< 情報 2 >

1) 企業名			
2) 個人名			
2) 住所		電話	
3) 現状	1. 現在経営中 2. 倒産・廃業		
4) 収集の主な内容・特色とおよその点数	(およその点数: _____点くらい)		
5) 手放す意志の有無	1. ありそう 2. なさそう 3. 分からない		

質問9 テキスタイル資料のさらなる活用のための方策等について、お考えがありましたらお示し下さい。

--

ご協力有り難うございました。

同封の封筒に入れ、11月28日(金)までにご投函下さい。

独立行政法人中小企業基盤整備機構 委託事業

テキスタイル資料の収集・展示に関する アンケート調査票

経済産業省（繊維課）では、我が国繊維産業が近年おかれている悪環境を克服し、活力ある産業に回生するためには、魅力ある商品開発が必要であり、そのアイデアの源泉として重要、かつ国内に豊富に存在してはいるものの、手軽に参照することが困難な各種テキスタイル・サンプルについて、それを保有している機関との連携によりデジタル・アーカイブを形成し、インターネットを通してデザイナーや学生が手軽にアクセスできるようにすることを検討中です。

このアンケート調査は、上記検討のために必要な情報を得るため、（独）中小企業基盤整備機構（繊維産業支援室）が（株）東レ経営研究所に委託して実施するもので、調査票はテキスタイルを収蔵しておられると思われる美術館・博物館等、および服飾デザイン関連の教育機関等の代表者の方にお送りしています。

調査の結果は、並行して実施する他の調査の結果と合わせて分析し、活用されます。

ご回答内容は統計的に処理して利用させていただき、個人や個別機関の情報が外部に漏洩することはありません。何卒、我が国繊維産業の再活性化のため、ご協力をお願いします。

この用紙にご記入のうえ、11月28日（金）までにご投函下さい。

株式会社 東レ経営研究所

〒279-8555 千葉県浦安市美浜 1-8-1

担当者：深津・足立

TEL：047-350-6226 FAX：047-350-6077

E-mail：Toshiki_Adachi@Toray.tbr.co.jp

ご記入にあたって

1. 回答し難い質問は空白で結構ですから、可能な限りご記入いただき、ご返送下さいますようお願い申し上げます。
2. 質問のほとんどは回答例から選んでいただくようになっています。
質問末尾の「1つに 印」「いくつでも 印」などの指示に従い、該当する回答例の番号を で囲ってください。
「その他」などの回答で「具体的に： 」とある場合は出来るだけ具体的な内容をご記入下さるようお願いいたします。
パーセントを記入いただく質問は、10%単位で結構ですのでご記入をお願いいたします。
3. 文字でご記入いただく質問には、出来るだけ箇条書きで簡潔にご回答下さい。
4. ご回答内容は統計的に処理した形で発表させていただきますので、個別の回答が公開されることはありません。

テキスタイル資料の収集・展示に関する アンケート調査票

質問1 貴機関の概要とご回答者について伺います。各欄にご記入、または番号に 印を付けてください。

1) 機関名			
2) 住所	(〒 -)		
3) TEL		4) FAX	
5) ご回答者氏名		6) 役職	
7) 設立年	西暦 _____ 年		
8) 組織形態(1 つだけ 印)	1. 株式会社等私企業 2. 財団法人 3. 学校法人 4. 国立 5. 独立行政法人 6. 第三セクター 7. その他(具体的に: _____)		
9) 設立の主目的(記入)			
10) 主要業務(サービス)内容 ^{注1} (いくつでも 印)	1. 収蔵品常設展示 2. 収蔵品特別展示 3. 他者保有品の特別展示(企画展) 4. 資料(関連書籍・雑誌)閲覧 5. 体験実施 6. 飲食提供 7. 博物館グッズ販売 8. 特産品等販売 9. その他(具体的に: _____)		
11) 年間利用者数	約 _____ 人		
12) 利用者内訳	1. 学生・生徒 _____ % 2. 周辺住民 _____ % 3. 観光客・旅行者 _____ % 4. 繊維・ファッション関係者 _____ % 5. その他 _____ % <div style="text-align: right;">(合計 100%)</div>		
13) テキスタイル資料収蔵の有無(1 つに 印)	1. 収蔵している 2. 収蔵していない		

質問2 以下の質問は、前問13)でテキスタイル資料を「収集している」とお答えの機関に貴機関の収集品について伺います。「収集していない」とお答えの機関は以下の回答は結構ですので、本調査表を添付の封筒に入れ、ご返送下さい)

1)全体の収集品総点数(記入)	約_____点
2)収集品の主な分野と特長 ^{注1}	主な分野 1. _____ 2. _____ 3. _____ 特長:
3)うち、テキスタイル資料の収集点数	約_____点
4)収集テキスタイル資料の主な分野と特長 ^{注2}	主な分野 1. _____ 2. _____ 3. _____ 特長:
5)収集テキスタイル資料の増減傾向(1つだけ印)	収集品は 1. 毎年相当増加している 2. 毎年若干増加している 3. ほとんど変わらない 4. 破損・滅失等で減少している

注1:「分野」は貴機関における分類によってお書き下さい(例えば、民俗資料、古民具、繊維機械等)。

注2:「分野」は収集しておられるテキスタイルについて、「周辺産地の絹織物サンプル」「輸出されていた絹織物」など、特徴を捉えた分野名をお書き下さい。

質問3 テキスタイル資料の収蔵形態についてお伺いします。

1) テキスタイル資料の収蔵形態(いくつかでも 印)	1. 反物 2. 着分 3. ハンガーサンプル 4. 台紙貼り付け 5. 見本帳形式 6. スワッチ 7. その他(具体的に: _____)
----------------------------	--

質問4 展示室についてお伺いします。

1) 面積(テキスタイル展示分)	約 _____ 平方米
2) テキスタイルの主な展示方法(1つに 印)	1. 裸展示 2. 陳列ケース内に展示 3. その他(具体的に: _____)
3) 展示品へのアクセス(1つに 印)	1. 原則的に触ってよい 2. 原則的に触ってはいけない
4) 平均的な展示期間(1つに 印)	1. 1か月程度 2. 2か月程度 3. 3か月程度 4. 4か月～1年程度 5. 展示替えはほとんどない

質問5 テキスタイル資料の収集についてお伺いします。

1) 収集方法(10%単位で記入)	1. 相対交渉で購入 _____% 2. オークションで購入 _____% 3. 寄贈 _____% 4. その他(具体的に: _____) _____% (計100%)
2) 主要入手先	ア. _____ 国内 海外
	イ. _____ 国内 海外
	ウ. _____ 国内 海外

質問6 テキスタイル資料収集にあたっての方針等についてお伺いします。

1) 収集資料選定基準1 (1 ~ 4、a ~ dいくつでも印) ^注	1. 民俗的に意義があるもの (a . 古代 ~ 中世 b . 近世 c . 現代) 2. 産業的に意義のあるもの (a . 古代 ~ 中世 b . 近世 c . 現代) 3. ファッション的に意義があるもの (a . 古代 ~ 中世 b . 近世 c . 現代) 4. その他 (具体的に :)
2) 収集資料選定基準2 (いくつでも印)	1. 日本の資料 2. 先進諸国の資料 3. エスニック的な資料 4. その他 (具体的に :)
3) 収集の決定方法 (1つに印)	1. 収集担当責任者が単独決定 2. 収蔵・展示部門の責任者が単独決定 3. 内部の委員会的組織が決定 4. 外部も含む審査機関が決定 5. その他 (具体的に :)

注：日本では、「古代～中世」は鎌倉・室町時代まで、「近世」は安土桃山・江戸時代、「現代」は明治以降とお考え下さい。

海外では、「古代～中世」は産業革命以前、「近世」は産業革命以後、「現代」は20世紀以降とお考え下さい。

質問7 テキスタイル資料の展示・閲覧についてお伺いします。

1) 展示品の閲覧 (1つに印)	A . 無料で公開 B . 入場料を徴収して公開 C . その他 (具体的に :)
2) 展示していない収蔵品の閲覧 (1つに印)	A . 原則として応じない B . 事前申請により応じる C . ケースバイケース D . その他 (具体的に :)

質問 8 貴機関におけるテキスタイル資料の記録・検索についてお伺いします。

<p>1) 記録項目(いくつでも印) 差し支えなければ記録票のサンプルを同封してお送り下さい。</p>	<p>1. 収蔵番号 2. 品名 3. 素材名 4. 糸番手等 5. 織編組織名 6. 染色加工の明細 7. 生産時期 8. 生産者名 9. 生産地 10. 用途 11. 入手経路 12. その他(具体的に:)</p>
<p>2) 記録形態(1つに印)</p>	<p>1. 台帳 2. カード 3. コンピュータ内の一覧表的台帳 4. コンピュータ内の各種検索が可能なデータベース 5. その他(具体的に:)</p>
<p>3) 利用者の検索方法(いくつでも印)</p>	<p>1. 係員に質問 2. カードを閲覧 3. コンピュータ端末で検索 4. その他(具体的に:) 5. 検索サービスはない</p>
<p>4) データベース化しておられる場合のデータベースソフト(1つに印、記入)</p>	<p>1. 汎用DBソフト(名称:) 2. 特注DBソフト(およその開発費用: _____千円)</p>
<p>5) データベース化しておられる場合の検索可能項目(いくつでも印)</p>	<p>1. 収蔵番号 2. 品名 3. 素材名 4. 糸番手等 5. 織編組織名 6. 染色加工の明細 7. 生産時期 8. 生産者名 9. 生産地 10. 用途 11. 入手経路 12. その他(具体的に:).</p>

質問 9 貴機関の組織と人員について伺います。資料収集・展示関連の組織・人員についてお答え下さい。

<p>1) 組織全体の人数</p>	<p>_____名</p>
<p>2) 資料収集・展示関連の人数</p>	<p>_____名(うち、学芸員資格保有者数_____名)</p>

3) 組織図(組織図を含む資料がありましたら同封してください)	
---------------------------------	--

注：人数には 18 日間 / 月以上勤務するパート・アルバイトも含まれます。

質問 10 貴機関の開設当時の所要資金および資金源について伺います。

1) 開設時所要総資金額	_____ 千円 (うち、収蔵品購入費 _____ 点 _____ 千円)										
2) テキスタイル資料関連所要資金額	_____ 千円 (うち、資料購入費 _____ 点 _____ 千円)										
3) 資金源 (10% 単位で)	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">1. 資本金・出捐金</td> <td style="text-align: right;">_____ %</td> </tr> <tr> <td>2. 借入金</td> <td style="text-align: right;">_____ %</td> </tr> <tr> <td>3. 寄付金</td> <td style="text-align: right;">_____ %</td> </tr> <tr> <td>4. その他 (具体的に: _____)</td> <td style="text-align: right;">_____ %</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: right;">(合計 100 %)</td> </tr> </table>	1. 資本金・出捐金	_____ %	2. 借入金	_____ %	3. 寄付金	_____ %	4. その他 (具体的に: _____)	_____ %	(合計 100 %)	
1. 資本金・出捐金	_____ %										
2. 借入金	_____ %										
3. 寄付金	_____ %										
4. その他 (具体的に: _____)	_____ %										
(合計 100 %)											
4) 出資・出捐者	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">1. 国・自治体等</td> <td style="text-align: right;">_____ %</td> </tr> <tr> <td>2. 企業</td> <td style="text-align: right;">_____ %</td> </tr> <tr> <td>3. 個人</td> <td style="text-align: right;">_____ %</td> </tr> <tr> <td>4. その他 (具体的に: _____)</td> <td style="text-align: right;">_____ %</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: right;">(合計 100 %)</td> </tr> </table>	1. 国・自治体等	_____ %	2. 企業	_____ %	3. 個人	_____ %	4. その他 (具体的に: _____)	_____ %	(合計 100 %)	
1. 国・自治体等	_____ %										
2. 企業	_____ %										
3. 個人	_____ %										
4. その他 (具体的に: _____)	_____ %										
(合計 100 %)											

質問 11 貴機関の現在の資料収集・展示関連費用および資金源について伺います。

1) 今年度の年間費用予算	約 _____ 千円												
2) 費用予算内訳	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">1. 人件費</td> <td style="text-align: right;">_____ %</td> </tr> <tr> <td>2. 収蔵品新規買付費</td> <td style="text-align: right;">_____ %</td> </tr> <tr> <td>3. 収蔵品維持費</td> <td style="text-align: right;">_____ %</td> </tr> <tr> <td>4. 展示関連費</td> <td style="text-align: right;">_____ %</td> </tr> <tr> <td>5. その他 (具体的に: _____)</td> <td style="text-align: right;">_____ %</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: right;">(合計 100 %)</td> </tr> </table>	1. 人件費	_____ %	2. 収蔵品新規買付費	_____ %	3. 収蔵品維持費	_____ %	4. 展示関連費	_____ %	5. その他 (具体的に: _____)	_____ %	(合計 100 %)	
1. 人件費	_____ %												
2. 収蔵品新規買付費	_____ %												
3. 収蔵品維持費	_____ %												
4. 展示関連費	_____ %												
5. その他 (具体的に: _____)	_____ %												
(合計 100 %)													

3) 資金源	1. 自主財源	_____ %
	2. 国・自治体等	_____ %
	3. 寄付等	_____ %
	4. 会費等	_____ %
	5. 借入金	_____ %
	6. その他（具体的に： _____）	_____ %
		(合計 100%)

質問 12 貴機関が収蔵しておられるテキスタイル資料のデジタル画像情報化について伺います。

1) テキスタイル資料のデジタル画像化にはどのような意義があるとお考えですか(いくつでも 印)	1. テキスタイル資料の長期保存の一助となる 2. 多様な検索方法と組み合わせることにより的確・迅速な情報入手が可能になる 3. インターネットと組み合わせることにより各地の機関に分散している情報を集中的に検索できる 4. その他（具体的に： _____）
2) デジタル画像化の取り組み状況(1つに 印)	1. 既に全部をデジタル情報化している 2. 既に一部(約 _____%)をデジタル化している 3. 実施すべく現在取り組み中である 4. 現在実施していないが、実施に向けての具体的な計画がある 5. 現在実施していないが、将来実施したいと考えている 6. 現在実施しておらず、実施の計画もない
3) デジタル画像はインターネット等で公開すべきだとお考えですか(1つに 印)	1. すべて公開すべきである 2. 主要なもの、価値がある物に限って公開すればよい 3. 公開する必要はない
4) 2)で1、2に 印を付けた方に伺います。デジタル画像はインターネット上に公開していますか(1つに 印)	1. すべて公開している 2. 一部を公開している 3. 公開していないが、公開に向けて準備中である 4. 公開しておらず、現時点では公開の予定はない
5) デジタル化を推進する上での困難点があれば上げて下さい(いくつでも 印)	1. 費用がかさむ 2. 要員がない 3. デジタル化・データベース化の技術がない 4. サンプルに関する情報が不足(スペック情報など) 5. 努力に見合う活用が期待できない 6. その他（具体的に： _____）

質問 13 貴機関のテキスタイル資料の貸出や分譲について伺います。

1) 貸出について(1つに印)	<ul style="list-style-type: none"> 1. 他の美術館などの企画展などへの貸し出すことがある 2. 研究者等の要請に応じて貸し出すことがある 3. 貸出は原則的に行わない
2) 分譲について(1つに印)	<ul style="list-style-type: none"> 1. 意義ある要請に対しては分譲することがある 2. 分譲は原則的に行わない

質問 14 貴機関が収蔵しておられるテキスタイル資料の活用拡大について伺います。

1) 貴機関が収蔵しておられるテキスタイル資料のデジタルアーカイブ化について伺います(1つに印)	<ul style="list-style-type: none"> 1. 自己費用で推進中(または推進を計画中)である 2. 補助金などの施策があれば推進したい 3. どちらともいえない 4. あまり推進したくない 5. 推進する予定はない
2) テキスタイル・デジタルアーカイブ中核機関が形成された場合、貴機関ではここと連携してデジタルアーカイブを公開する意向はありますか(1つに印)	<ul style="list-style-type: none"> 1. ぜひ公開したい 2. 実現のための補助金などの施策があれば公開したい 3. どちらともいえない 4. あまり公開したくない 5. 公開する予定はない
3) 貴機関のテキスタイル資料が実践的な商品企画・設計に活用されるためには、どのような努力・工夫が必要と考えますか(主なもの3つに印)	<ul style="list-style-type: none"> 1. 繊維・ファッション業界やファッション情報に精通したキュレーターの育成 2. 検索方法の改善・工夫(クリエイションに直結する感性検索や連想検索などの開発) 3. 収蔵品の拡充(海外を含む他機関との連携も視野に入れて) 4. デジタル化とインターネットの活用によりクリエイションの現場などで簡便に検索・閲覧できること 5. 会員制などによる貸出サービスの実施 6. その他(具体的に:)

質問 15 貴機関のご存じの範囲で、ある程度まとまったテキスタイルの収集を持っている企業または個人はおられますか。また、その企業または個人が公共機関等に対し、収集物を無償提供あるいは有償売却されたい意向をお聞きになったことはありませんか。

とくに、廃業された企業・個人が保有しておられた収集の行方について関心があります。

これは、情報としてお聞きするもので、回答者には何らの責任も発生するものではありません。

< 情報 1 >

1) 企業名			
2) 個人名			
2) 住所		電話	
3) 現状	1. 現在経営中 2. 倒産・廃業		
4) 収集の主な内容・特色 とおよその点数	(およその点数: _____点くらい)		
5) 手放す意志の有無	1. ありそう 2. なさそう 3. 分からない		

< 情報 2 >

1) 企業名			
2) 個人名			
2) 住所		電話	
3) 現状	1. 現在経営中 2. 倒産・廃業		
4) 収集の主な内容・特色 とおよその点数	(およその点数: _____点くらい)		
5) 手放す意志の有無	1. ありそう 2. なさそう 3. 分からない		

質問 16 テキスタイル資料のさらなる活用のための方策等について、お考えがありましたらお示し下さい。

--

ご協力有り難うございました。

同封の封筒に入れ、11月28日(金)までにご投函下さい。

